

# 第7回日本訪問歯科医学会

## 『地域医療連携とターミナルデンストリー』

■ 平成 19 年 11 月 11 日(日)

■ 東京国際フォーラム ホール D7

### ■ プログラム

1. 特別講演 『アメリカナーシングにおける口腔衛生と看護関係』  
～MDSを使用したアセスメントとケアプラン～  
敬老中間看護ホーム 看護師 ワード・幸子 氏  
Keiro Senior HealthCare Director of Nursing Sachiko Ward
2. 協力講演 『嚥下・摂食機能障害の在宅援助の方法』  
中国リハビリテーション研究所 主任研究員 石田 貴和 氏  
  
『在宅介護での口腔ケアの重要性』  
「若年性アルツハイマーの妻の介護記介護は楽しく」著者 齊藤 清昭 氏  
  
『「摂食・嚥下障害対策委員会」から  
「いわて摂食嚥下リハビリ研究会」まで』  
医療法人共生会理事長 松園病院院長 河嶋 寛 氏
- 5.協会講演 『わが歯科医院での訪問歯科診療』  
青山歯科医院 青山 修 氏  
  
『訪問診療に携わっての2年間』  
ほかお歯科クリニック 渡邊 武子 氏・小松 右子 氏  
  
『ターミナルケアへの取り組み ～チーム医療の一員として～』  
緒方歯科医院 緒方 順治 氏  
  
『摂食・嚥下機能療法における1 歯科医院のとりくみについて』  
医療法人ミナトヤ歯科医院 滝沢 仙太郎 氏  
  
『訪問歯科診療における現場での実情』  
アカデミー歯科クリニック 千田 弘之 氏
4. パネル講演 『筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者が口腔ケアに望むこと』  
～患者・家族・専門職の認識のズレ～  
新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 隅田 好美 氏  
医療法人祐愛会西村歯科 西村 有祐

## アメリカナーシングにおける口腔衛生と看護関係

～MDS を使用したアセスメントとケアプラン～

敬老中間看護ホーム 看護師 ワード・幸子 氏  
Director of Nursing Word Sachiko

アメリカのナーシングホームでは、1987年よりMDSを使用した居住者のアセスメントが開始されました。入居時のアセスメントをベースに年一回の監査が厳しく行われます。MDSは、毎日の介護の基礎となり、その結果を評価する上で、大きな役割をもちます。

今回は、MDSの口腔衛生の部分のアセスメントがどのように看護に展開して行くかを考えてみたいと思います。

### ●略歴 ワード・幸子 (WARD SACHIKO)

徳島大学医学部附属看護学校卒業後。東横病院手術室主任、横浜ブラフホスピタル病棟婦長、愛媛大学附属病院・脳外科・口腔外科・麻酔科・病棟婦長を務めたあと、1980年に渡米し1982年アメリカ看護師(RN)、パブリックヘルス(PHN)資格取得。その後UCLA老人学科パシフィックユニオンカレッジでも学ぶ。

1982年シティービルホスピタル。ケイロウ中間看護ホームに看護師長としてつとめたが、施設のビルディン修復のため一時閉鎖。1995年スタッフビルダース・ホームケアで臨床副部長、ホームケアコーディネーターをつとめたが、2000年ケイロウ中間看護ホーム再開にあたり、看護師長としてつとめ現在に至る。

## 嚥下・摂食機能障害の在宅援助の方法

中国リハビリテーション研究所 主任研究員  
石田貴和

現在、在宅復帰できた高齢者の中には、様々な介護保険サービスを利用しながら自宅にて何とか暮らしている現状である。また、老老介護、日中一人高齢者（介護する家族が共働き）等、在宅にて暮らしを支える家族、高齢者本人がかなりの負担になっているのも事実である。

そのような様々な問題の中で、「食べること」「食べさせること」が介護負担の主たる要因になりつつある。「誤嚥しながら食べる」「ムセながら食べる」「食事を食べたあと咳きや痰が出る」「口を開けてくれない」「口腔ケアができない」等、訪問系サービスを提供している病院・訪問看護ステーション等から相談・訪問リハビリテーションの依頼が急増している。

今回は、在宅にておこなえる嚥下・摂食リハビリテーションの方法を伝授する中で、会場にお越しの先生方と活発な意見交換が出来れば幸いです。

### ●略歴 石田 貴和（いしだ たかかず）

平成1年 京都外国語大学  
平成5年 日本聴能言語学院（現日本聴能言語福祉学院）  
平成10年 リハビリテーションカレッジ島根 講師  
平成17年 中国リハビリテーション研究所 主席研究員

大学・短大・看護学校・リハビリテーション専門学校非常勤講師  
病院・訪問看護ステーション・老人保健施設にて講演・セミナー開催

### 著 書

『摂食・嚥下リハビリテーション』 中国リハビリテーション研究所編  
『失語症患者援助方法』 中国リハビリテーション研究所編

## 在宅介護での口腔ケアの重要性

若年性アルツハイマーの妻の介護記「介護は楽しく」著者 齊藤 清昭 氏

アルツハイマー病の妻が、平成 12 年にけいれん発作を起こして以来、食事の時間が長くなってしまい、場合によってはご飯茶碗半分のご飯を食べるのに 2 時間もかかるので、介護者の私の負担感は相当なものでした。

平成 16 年 4 月訪問歯科医院による虫歯の治療と並行して、口腔ケアを受けるようになりました。

歯科衛生士が口の中をきれいにすれば、食欲が増進し、嚥下力もアップしますので、よく食べられるようになりますよ、と言いましたが、私は半信半疑でした。歯や歯肉のカスをとったぐらいで、そんなによくなるのかな、ぐらいにしか思えなかったからです。

しかし、口腔ケアを実施していただいて、2 週目を過ぎた頃から、劇的といっていいぐらいな効果が表われました。大きく口を開いて食べるようになり、明らかに飲み込みがよくなり、食べるスピードもアップし、朝食が 30 分前後で終わってしまうようになったのです。

えーっ、本当だったんだ、と思い、医師と歯科衛生士に感謝したい気持ちが湧きあがってきたものでした。

何年も苦勞していた食事介助が一気に楽になったことで、歯の治療や口腔ケアの大切さを、あらためて認識した次第です。

### ●略歴 齊藤 清昭（さいとう きよあき）

昭和 42 年 3 月 都留文科大学初等教育学科終了

昭和 47 年～平成 10 年 東京都町田市立小学校教諭

平成 2 年 小説「ワンルームの砂」自由都市文学賞佳作受賞

平成 10 年 4 月 妻の介護に専念するために退職

平成 18 年 1 月 朝日新聞社刊「花を――若年性アルツハイマー病と生きる夫婦の記録」出版。真鍋弘樹著の後半部で取り上げられる。

平成 18 年 7 月 TBS テレビニュース「イブニング 5」の特集で夫婦の生活が放映される。

## 「摂食・嚥下障害対策委員会」から「いわて摂食嚥下リハビリ研究会」まで

医療法人共生会理事長 松園病院院長 河嶋 寛 氏

私たちは、生まれたときから当たり前のこととして生きるためにものを摂取してきています。一方、疾患のために摂食・嚥下機能が障害され、なすすべも無くそのまま諦められている方々も少なくありません。こうした人間としての権利、尊厳の回復に対して、そのリハビリに関する知識と技術が医療施設、老人施設や個々の認識によってあまりにもばらつきがあることも事実であります。

本日は、松園第一病院・第二病院における摂食・嚥下障害への取り組みについてお話をし、岩手県全体に広がりつつある「いわて摂食・嚥下リハビリテーション研究会」の現状を述べることにより、みなさまの参考にしていただければ幸いです。

松園第一病院は医療型療養病床 60 床、介護型療養病床 60 床の療養型病院です。居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、デイケア、リハビリを併設しています。入院患者さんの大部分が脳血管障害の方であり、現在も入院患者さん 119 名中経管栄養 16 名、胃瘻栄養 43 名という傾向はほとんどいつもかわりません。ではこの方たちのすべての人が経口摂取不可能なのでしょうか。

このような観点から、松園第一病院に「摂食・嚥下障害対策委員会」が発足したのが平成 15 年 5 月でした。委員長に言語聴覚士、委員に医師、理学療法士、病棟看護師、看護補助、訪問看護師、管理栄養士、薬剤師、放射線技師の構成で立ち上げました。先ず毎月 1 回集まって摂食嚥下の勉強会を行うと、口腔ケアの重要性が分かってきました。そこで、近くの M 歯科医院のご協力をえて、歯科衛生士さんの技術指導を週 2 回、半年間受けることになりました。口腔ケアの効果は明らかで、不明熱の発生の減少、部屋の悪臭がなくなり、全体が明るくなったという結果を得、現在はスタッフすべてが当然のように口腔ケアを実施しています。

昨年 11 に入院し、脳出血後遺症、高次脳機能障害のため、胃瘻造設した 75 歳の女性に対して摂食嚥下訓練を開始した、その内容についてもご説明します。

### ●略歴 河嶋 寛（かわしま ひろし）

社団医療法人共生会 理事長、松園第一病院 院長・耳鼻咽喉科科長、松園第二病院、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医・認定補聴器相談医、岩手医科大学非常勤講師、医学博士、介護支援専門員、盛岡地区介護支援専門員協議会副会長、いわて摂食・嚥下リハビリテーション研究会会長

## わが歯科医院での訪問歯科診療

青山歯科医院 青山 修 氏

当歯科医院が 訪問歯科診療をするようになり、はや10年が経ちました。7年前からは、日本訪問歯科協会のお世話になりながら現在までやって参り、紆余曲折ありましたが、何とか今のスタイルに落ち着いているところでございます。

訪問歯科スタイルにおきましては、見学したいと、来てくださる医院さんも多くあり、私どもの診療で勉強になるころがあればと思い、今回発表させていただきます。高齢化社会は、有無をいわず、どんどん押し寄せてきています。歯科の分野が、社会の遅れをとることなく、介護医療のイニシャチブをとれるよう歯科全体で進んでいくべき時代が今来ているようであります。

### ●略歴 青山 修（あおやま おさむ）

平成元年 4月	鹿児島大学歯学部卒業 鹿児島市 平山歯科勤務 林歯科勤務 鹿児島市立病院口腔外科 研修医
平成3年 12月	宮崎市内 青山歯科医院開業
平成13年 3月	日本訪問歯科協会に所属

## 訪問診療に携わっての2年間

医療法人恵裕会 ほかお歯科クリニック 渡邊 武子 氏・小松 右子 氏

訪問診療を始めて2年間、開始当初はどのような口腔ケアをすれば良いのか、この方法で良いのか、何をすればこの患者さんにとって一番良いのかと悩みながら、がむしゃらに取り組み、とにかくお口の中をきれいにしてあげようとしてきましたが、日々の訪問で施設の職員の方や家族の方と毎回お会いし情報交換する中で、私一人では何も出来ない、患者さんを取りまく周囲の方の協力が一番大切だと気付いた事と、日々の活動の一部を紹介したいと思います。

### ●略歴 渡邊 武子（わたなべ たけこ）

1988年 山口県歯科衛生士学院卒業  
2003年 ほかお歯科クリニック勤務  
2005年 ほかお歯科クリニック往診スタート

### ●略歴 小松 右子（こまつ あきこ）

1988年 山口県歯科衛生士学院卒業  
2005年 ほかお歯科クリニック勤務  
2005年 ほかお歯科クリニック往診スタート

## ターミナルケアへの取り組み ～チーム医療の一員として～

緒方歯科医院 緒方 順治 氏

訪問歯科診療は、歯科医師なら誰もが実践できるかということ、決してそうではありません。豊富な医学的知識とともに、豊富な臨床経験を有することが必要であることは、歯科大学病院でも明記されている事実であります。その知識と技術を習得するために、非常に valuable な日本訪問歯科学会でも今回講演する機会をいただきました。25年の臨床経験の中で、私は6年間訪問歯科診療に携わってきました。当初は、往診対象患者の多くが多疾患を抱えており、来院する患者様とは一線を画するものがあることに驚きを感じることの連続でした。院内のスタッフはもとより、他科の医療スタッフとの連携を密にし、いかに安全な歯科診療を行なうかを最優先に考えてきました。我々の歯科医院における往診チームは、院内スタッフの人材育成に目を向け、各個人の役割分担を明確にし、一人ひとりの自覚と自立を促すことで、患者様から信頼される訪問歯科診療を目指してきました。

近年、医科の分野では口腔ケアの重要性が叫ばれ、歯科医療スタッフが関与する機会が増えてきました。病院歯科のない病院では、開業歯科医院に口腔ケアの要請が来る場合も多くあります。歯科医師や歯科衛生士・歯科技工士が実際に病院や施設に赴き、口腔ケアを実践し、あるいはスタッフにお教えする機会も増えてきました。高齢化社会がさらに進み、訪問歯科医療の必要性が増大する時期は、すぐ目の前に迫っています。今回、エンドステージの患者様に対して我々が行ってきた訪問歯科診療を提示することにより、日本訪問歯科協会を中心とした、更なる歯科医療の進歩が得られるような提言が出来たらと思います。

### ●略歴 緒方 順治（おがた じゅんじ）

- 1980年 明海大学歯学部卒業
- 1980年 医療法人関根歯科医院勤務
- 1982年 緒方歯科医院開設
- 1987年 医療法人亮美会緒方歯科医院開設・理事長就任

厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医 日本訪問歯科協会会員  
YAG Laser 研究会会員 日本ベッグ矯正歯科学会会員

## 摂食・嚥下機能療法における 1 歯科医院のとりくみについて

医療法人ミナトヤ歯科医院 滝沢 仙太郎 氏

昨今、介護業界においても口腔ケア、特に摂食・嚥下に対する関心がますます高くなってきています。訪問診療を行っている歯科医院であればいろいろな所で、検診や機能療法についての相談・依頼があると思います。

専門機関であればVF（造影検査）、VE（内視鏡検査）も取り入れながら検査、診断、計画、実践、評価といった流れで本格的な取り組みを行っていき我想います。一方、1 歯科医院ではそれぞれに限界があり、いろいろな要素を省略しながら可能な範囲での取り組み方にならざるをえないと思います。なかなか取り組みにくいことの理由に専門的な知識と経験が必要とされることと、時間あたりの収入が得にくいということが挙げられると思います。ただし訪問診療をかかげる以上、これらを避けて通るわけにもいきません。

私もこのような状況の中で試行錯誤しながら、日々取組んでいるところです。自分の考えではできるだけ肩の力を抜き、多少なりとも保険診療の算定を行い、地域社会に貢献できそうなスタイルをとっていきたいと思っています。これから将来の超高齢化社会を見すれば、より多くの歯科医師が率先して口腔ケアに取り組まなければならない使命があると思います。そのようなことから現在同じように試行錯誤されている先生、及びこれからどのように行っていけばいいか悩まれている先生方にとって少しでもヒントになるような事があれば幸いですと思ひまして今回の発表に至りました。

### ●略歴 滝沢 仙太郎 （たきさわ せんたろう）

平成 10 年 3 月 日本歯科大学新潟歯学部卒業

平成 10 年 4 月 医療法人ミナトヤ歯科医院に勤務現在に至る

日本訪問歯科協会会員

日本臨床歯周病学会会員

## 訪問歯科診療における現場での実情

医療法人慈慶会 アカデミー歯科クリニック 千田 弘之 氏

当クリニックでは今年度より日本訪問歯科協会のお世話になるようになり、はや半年が過ぎようとしております。当クリニックでは、グループホームを中心に患者様のご自宅の方にも伺わせていただいておりますが、その現場で機材のセッティングを行い、患者様に一般の椅子に座っていただき限りある道具で治療する、さらに患者様自身も障害者の方や重度認知症の方が多いという状態である、と言う事が、当初、診療室で身体的には健康な患者様しか診療したことのない私にとって院内の治療レベルと比較してかなり難易度が高いという現実を痛感させられました。

しかし今までは、「歯科医院に通院したくてもできない患者様のためにこそ医療は必要であり、歯科医院と何ら違いのない医療を提供することこそが大切である。」と言う理事長先生のお言葉を胸に刻み、一步一步より良い診療を目指す毎日です。

### ●略歴 千田 弘之（せんだ ひろゆき）

2003年3月 奥羽大学歯学部歯学科卒業  
2006年4月 朝日大学臨床研修歯科医  
2007年3月 朝日大学臨床研修歯科医 修了  
2007年4月 医療法人慈慶会 アカデミー歯科クリニック 勤務  
訪問診療部長として現在に至る

日本全身咬合学会会員

## 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者が口腔ケアに望むこと

～患者・家族・専門職の認識のズレ～

新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 隅田 好美 氏  
医療法人祐愛会西村歯科 西村 有祐 氏

2002年より筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者であるA氏に、患者会を通して社会福祉の立場から関わり始めた。患者会への相談は、病いの進行にともない療養生活をどのようにしたらいいのかということであった。その後、社会福祉の研究として、2004年～2005年に継続的な聞き取り調査を行った。研究の目的は支援における「患者・家族・専門職の認識のズレ」を明らかにし、「患者が真に望んでいる支援」を検討することであった。社会福祉士としての関わりの中で、歯科衛生士としてA氏と「認識のズレ」があることを経験した。病いが進行し、上肢をほとんど自分で動かすことができなくなり、妻が口腔ケアを行っていた。A氏に歯科衛生士としての支援も可能であると伝えていたが、口腔ケアの依頼をされたのは2003年であった。2004年、A氏に口腔ケアについて聞き取り調査を行った。口腔ケアを受け入れるまでの考え方の変化と、口腔ケアにどのようなことを望んでいるかを明らかにすることが目的であった。今回、社会福祉の研究や関わりと口腔ケアについての聞き取り調査から、「患者が真に望んでいる支援」について検討したので報告する。

### ●略歴 隅田 好美（すみだ よしみ）

1980年3月 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校卒業  
2000年3月 山口県立大学社会福祉学部卒業  
2002年3月 大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了  
2006年9月 大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了  
博士（社会福祉学）修得  
1980年4月 神原歯科矯正クリニック勤務  
1986年11月 大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校勤務  
2000年4月 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 非常勤講師  
2002年4月 西村歯科医院勤務 非常勤歯科衛生士  
2004年4月 新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 准教授

### ●略歴 西村 有祐（にしむら なおすけ）

1955年4月 大津歯科医院勤務  
1955年3月 岐阜歯科大学卒業  
1956年7月 西村歯科開設  
2004年4月 大阪歯科大学口腔衛生学講座専攻生入学